教育委員会総括・受講者感想（抜粋）

東京都足立区教育委員会

授業研究は講座前半の理論編を踏まえて行い、研究協議は講義・演習を担当した講師から指導・講評をいただけたことで、理論と実践が結び付き、一層理解を深めることができた。本区の実践は第3回講座及び第4回講座を踏まえたものである。本区では、児童が伝え合う表現を広げたり、内容を深めたりすることで、より充実した言語活動を行う授業を目指している。そのため、コミュニケーションを図る目的、場面、状況を明確にして最終活動を設定し、「本当に伝えたいことを伝える」言語活動を本区の授業研究に取り入れた。

東京都足立区受講者感想

講座の前半の講義・演習では理論的な内容を、後半の授業研究では様々な自治体の学校の実践を学ぶことができ、非常に実りの多い講座となった。外国語活動・外国語科の授業では、これまでは授業の具体的なイメージが湧かないことがあり、指導書通りの進め方をしたり、過去の事例を参考にしたりすることが多かった。特に意図を考えることなくチャンツを入れたり、多くの歌を歌ったりと、毎時間、ルーティンで活動をしてしまうことも多くあった。しかし、今回の講座を通して動機付けの大切さや、言語活動を充実させる方法などを多く学ぶことができた。また、外国語活動・外国語科の授業に対する意識も変わった。今後は、より多くの児童がめあてを意識して外国語活動・外国語科の授業を楽しみながら受けることができるよう、講座で学んだことを日々の実践に生かしていく。

千葉県浦安市教育委員会

講座全体では、学習指導要領の原点について吉田研作先生からお話をいただき、ティーム・ティーチング、4技能（5領域）に関する具体的な指導法、評価や学校段階間の接続など、どれも外国語を教える上での基盤となる大切な事柄を学ぶことができた。中でも、第7回～第12回講座では、それぞれの研修内容を踏まえて、教員が授業を実践し、学校や自治体の枠を超えて協議できたことは大変有意義であった。

千葉県浦安市受講者感想

本講座は、全12回というボリュームのある講座設定で大変学びの多いものであった。前半は大学の先生方による外国語学習の理論に関する講義。後半は前半の内容を受けて設定された授業研究だった。後半の授業研究の様子を視聴しながら、前半の指導内容と合わせ、より深く学ぶことができた。ALTとのティーム・ティーチングにかかわる授業実践では、実用的なクラスルームイングリッシュを取り上げていたので、どのような場面でどのように使うことができるのかを知ることができた。また、児童の意欲の引き出し方については、指導技術だけでなく、その根底にある理論についても解説があり、とても納得できた。上記のほかにも「聞くこと・話すこと」「読むこと・書くこと」「学校段階の接続」などについて、実践報告を交えた説明は、今後の授業実践に生かせるものであり、たくさん学ぶことができた。このような機会をつくってくださったことに感謝したい。

秋田県横手市教育委員会

授業を構想し実践する際の大切なポイントを学んだ。これらは授業改善の方向性を明確にし、今後の研究の拠り所となる内容であった。第1回講座でご指導いただいたように、「Fish BowlからOpen Seasへ」を意図しながら、本言語活動を展開した。今後はさらにOpen Seasで学びながら、必要な語彙を必要な時に獲得することができるように、活動中、活動後の指導を充実させていく。講師の方々や参加者のみなさんからは、昨年度以上に多角的な視点でご意見をいただくことができ、横手市全体の授業改善につながるものとなった。また他自治体の優れた実践からは、大きな刺激と学びを得ることができた。

秋田県横手市受講者感想

第6回講座までは「読むこと」「書くこと」「聞くこと・話すこと」「TTの在り方」など授業作りや指導に生かせる実践的な内容だった。単元構成の在り方、単元や1時間等のねらいの設定の仕方など具体的な指導内容を例に挙げながらご指導いただいたことで、日々の授業ですぐに活用できるアイディアを得ることができる講座となった。第7回講座以降は計6回の授業研究であった。年間6回もの外国語の授業を参観したのは初めてで、どれも興味深かった。授業を参観するにあたり与えられた視点だけではなく、これまでの講座の重点などを想起しながら、一緒に参観した先生方と協議を重ねたことで私自身の授業の見方も鍛えられた。また、複数県の先生方とのZoomによる意見交流を行い、共感したり、新たな視点を学んだりしたことで研修が深まった。それぞれの協議において地域性、経験年数など違いはあれど、ひとつの授業について県を超えて語り合えるという貴重な経験ができた。

福島県いわき市教育委員会

いわき市教育委員会として、小学校教員の外国語の指導力向上を目的とした教職員研修を実施しているところではあるが、外国語の授業を担当している小学校教員が全員悉皆で受講することについては、なかなか難しい状況である。そのような中、今年度も、拠点校方式及びサテライト方式により、本事業に参加させていただく機会を得ることができ、大学教授等による専門的な指導に加え、授業研究を通した他地域での取組みについての情報交換を通して、外国語の指導力向上を目指し研鑽に励むことができた。

福島県いわき市受講者感想

ALTと共有できる形成的評価のためのチェックシートや文を書くときのチェックリスト、小中連携を意識した授業など、講座で学んだことを自分の授業に反映させることができた。前半に様々なテーマの講義を受講し、後半に実際の授業の様子を見て意見交換すると言う経験を積むことで、普段の授業を振り返る際の改善の視点が明確になった。

新潟県妙高市教育委員会

受講者が希望する講座を選択して受講する方式に変更したことで、個々の教員のニーズに応じた参加が可能になり、全12回の講座に延べ人数で307名の小学校教員（ALTを含む）が参加した。実際、前半の指導方法等に係る講座で得られた知見を、自身の授業で活用した教員が少なくなかった。また、後半の授業研究では、参加した6つの市区の先生方が授業を公開し、それをもとに各市区のグループ協議で出された意見交流を通じて、日々の外国語の授業作りに直結する知見が得られ、大いに学びを深めることができた。

新潟県妙高市受講者感想

様々な形態での講座であったので、複数回の受講でもポジティブな気持ちで参加することができた。また、勤務校では外国語に関して明るい職員は少なく、今回の講座のように、多くの大学の先生方から学んだり、他地域の実践を知ったりする機会は、とても有効であると感じた。ALTとともに受講していたため、受講内容をすぐに共有でき、授業に活かすことができた。例えば、ポジティブなフィードバックについて学んだ後、どんな場面で、どんな言葉がけをすると効果的かをALTと話し合い、実際に授業内で試したことがあった。今年度3・4・6年生の外国語を担当しており、学年の発達段階に合わせて、学習の流れを効果的に組んでいくことを意識したいと感じた。また、評価に関する様々な知見を学ぶことができ、自身の評価に活かしたいと感じた。

東京都狛江市教育委員会

コロナ禍によりオンラインで実施される研修等が増加したが、録画された内容を視聴する方法ではなく、リアルタイムのオンライン講座として直接講師の先生方や、全国各地の拠点校の先生方の生の声を聴くことができたのは本講座の特性上、非常に有効であると感じた。本講座を受講し、所属校の教員に還元すること、自ら実践したことを丁寧に振り返り評価することについては受講後の課題として、今年度の受講者に指導を行った。

東京都狛江市受講者感想

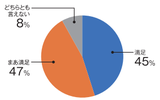
ネイティブのような発音ではなくても、自分の発音で話せるようになることができるようになればよいというお話を聞き、気持ちが少し楽になった。正しいかよりも適切かどうかということを意識し、会話の中やその場面で伝わる表現を使えるようにしたいと思った。また、やり取りがうまくいかない場合、日本語でもポジティブなフィードバックは難しいと感じることが多かったが、まずは児童が活動したことを評価し、その児童の特性や個性を生かしてRecastしたり、改めて質問に戻るということを学ぶことができた。児童を認めポジティブフィードバックができるように、児童理解に努め準備をしていきたいと思う。

講座内容に対する評価（抜粋）

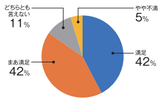
各講座終了後に受講者に対して講座内容に関する評価アンケートを実施した。第1回から第12回までの各講座の評価アンケートの結果と分析の一部を掲載する。講座は第1回から第6回までが講義形式で、第7回から第12回までは授業研究形式の2種類の形式であった。そのため、アンケートの質問も講座の形式によって少し変更した。どちらの形式でも、最初に受講者の属性を知るための4つの質問を設けた。その後に講義形式では15個の質問を、授業研究形式では11個の質問を設けた。全12回合わせて延べ1065人から回答を得た。

総合的に講座に満足できましたか

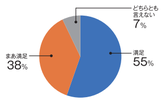
第1回講座



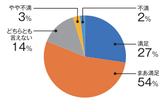
第2回講座



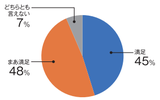
第3回講座



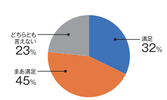
第4回講座



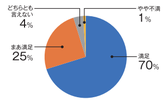
第5回講座



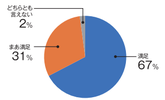
第6回講座



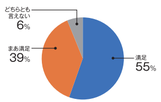
第7回講座



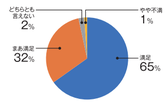
第8回講座



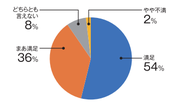
第9回講座



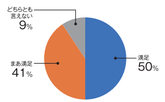
第10回講座



第11回講座

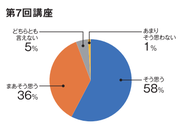


第12回講座

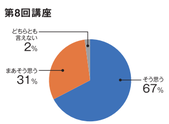


授業動画の中の言語活動は今後ご自分の授業で活用できそうですか

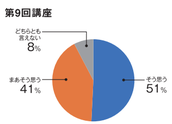
第7回講座



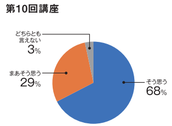
第8回講座



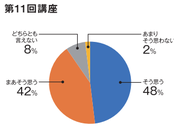
第9回講座



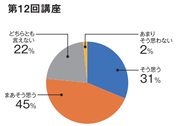
第10回講座



第11回講座



第12回講座



「授業動画の中の言語活動は今後ご自分の授業で活用できそうですか。」に関しては、第7回（94%）、第8回（98%）、第9回（92%）、第10回（97%）、第11回（90%）、第12回（76%）であった。第12回を除きどの回も90%以上の高値であった。第12回は小中連携がテーマで、提供された録画授業は小学生と中学生が一緒に授業を受けるという斬新な取り組みであった。そのため、受講者が自分もやってみたいと思ったとしても、簡単に実践できる内容ではなかった。こういうわけで、第12回の授業は活用できるという回答にはつながらなかった可能性がある。

全講座の詳細は
明海大学HPをご覧ください

https://www.meikai.ac.jp/

講座前タスク・講座動画・講座後タスクを含む
全講座の詳細はこちらからご覧ください。

※画像はあくまでもイメージです。

発行：明海大学地域学校教育センター・企画広報課 〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目　TEL.047-350-4998（センター直通）

文部科学省委託 令和4年度

教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業

（小学校外国語のための免許法認定講習等実施事業）

MEIKAI-JOEプラス2022 小学校外国語科等講座

成果報告書（概要版）

はじめに

明海大学は昭和45年に創立され、外国語学部、経済学部、不動産学部、ホスピタリティ・ツーリズム学部、保健医療学部及び歯学部から構成される半世紀の歴史を有する大学です。社会性・創造性・合理性を身につけ、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成をめざしています。

本学では、中学校及び高等学校の英語科の教員養成に努めてきました。平成30年度には小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）から登録団体としての認証を受けるとともに、教職課程科目「小学校英語基礎概論」を新設し、小学校で外国語科及び外国語活動の授業が行える教員の養成にも着手し、ここ数年間では教員採用試験で毎年10名程度の中・高英語科教員の合格者を出すなど実績を上げています。

本事業の概要

本事業は、令和2年度、令和3年度に引き続き、明海大学が文部科学省の委託を受けて小学校外国語活動・外国語科に関する講座を行うものです。令和2年度は、本学と教育連携に係る協定を締結し様々な取組を実施している東京都足立区教育委員会、千葉県浦安市教育委員会、秋田県横手市教育委員会、令和3年度からは、福島県いわき市教育委員会と新潟県妙高市教育委員会が連携教育委員会に加わりました。そして、令和4年度には、新たに参加希望のあった東京都狛江市教育委員会が連携することとなりました。また、講師の先生とのやり取りやアクティビティへの参加はできませんがZoomにより講座を視聴できる「オブサーバー・ボランティア」として東京都神津島村教育委員会、茨城県土浦市教育委員会、佐賀県伊万里市教育委員会が参加しました。

これまで、小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）や小学校英語教育学会愛知支部理事の協力を得て実施してまいりましたが、令和4年度からは、これらの協力機関に加えて、公益財団法人日本英語検定協会（会長・吉田研作上智大学名誉教授）の協力を得て実施しました。

本事業で実施する、明海大学「小学校外国語科等講座」（MEIKAI-JOE プラス2022）は、小学校外国語活動・外国語科が導入された新学習指導要領を円滑に実施するため、教師の負担を軽減しつつ、質の高い授業を行える指導体制を構築することを目的としています。

今年度からは、「Zoom による小学校英語・なんでも相談交流室」を開設しました。これは、全12回の講座とは別に、日ごろの教育実践を通して悩みがあり講師に相談したい教員や他地区の教員との意見交流を図りたい教員が教育委員会から送付されたZoomURLで参加する場と機会が大切であると考え開設したものです。

講座概要

本講座は、令和4年5月から12月にわたり、全12回実施しました。最初の6回までは、講義・演習型等の講座であり、7回から12回までは授業研究の講座となっております。

明海大学

講座概要

令和4年5月24日（火）午後3時20分～午後4時20分

第1回講座　新学習指導要領の原点

拠点校 85名　拠点校外 64名

講師：上智大学名誉教授 日本英語検定協会会長 吉田 研作

▲講座詳細

本講座では今回の学習指導要領が従来のものとどう違うのかについて説明しました。なぜ、今回の学習指導要領が今までにないものになっているのかについてその理論的背景を考えながら、具体的な教育理念と学習、指導のあり方について見ていきました。現在はまだまだ「教室」という「金魚鉢」的な環境の中での英語教育が中心に議論されていますが、今後は、そこで学んだ英語をどのように活かすかについて考えなければならなくなるでしょう。現代のネット時代における「教室」の概念は従来のものとは変わってきています。そして、そのような新時代の教育環境に見合った英語教育は、まさに「大海」で英語が使えることを念頭に置いたものでなければなりません。本講座では、このような点について皆さんと一緒に考えていきました。

令和4年6月28日（火）午後3時20分～午後4時20分

第2回講座　ティーム・ティーチングにおける評価について

拠点校 72名　拠点校外 62名

講師：明海大学教職課程センター・地域学校教育センター教授 百瀬 美帆／米村 珠子
明海大学多言語コミュニケーションセンター教授 パトリツィア・ハヤシ
明海大学多言語コミュニケーションセンター准教授 タイソン・ロード

▲講座詳細

本講座ではティーム・ティーチングにおける評価について説明しました。冒頭の講義に続きワークショップでは、形成的評価を行う学級担任や専科教員（T1）がALT（T2）に協力を求めながら授業を進める方法を講師が実演した後、受講者も演習を行いました。また講師との質疑応答において、受講者が日ごろのティーム・ティーチング時に感じている疑問や不安を受講者間で共有し、講師から助言を行いました。

令和4年7月28日（木）午後1時30分～午後2時40分

第3回講座　「聞くこと」「話すこと」の指導

拠点校 94名　拠点校外 59名

講師：J-SHINE理事 共愛学園前橋国際大学客員教授 育英短期大学非常勤講師 井熊 ひとみ

▲講座詳細

「小学校外国語活動」・「外国語」の授業において学習指導要領で求められている目標を理解し、その技能や資質、能力をどのような手順で育成するかを学びました。日本に育つ子どもたちが英語に触れ、学ぶプロセスからコミュニケーションに意欲をもって学びを進められるかを先生方と一緒に探していきました。そのための目的、場面設定、状況をどのように創り出していくか、そのためにはどのようなコミュニケーションが必要で子どもたちの気付きを促せるような活動を行うかを考えていきました。

令和4年7月28日（木）午後2時50分～午後4時00分

第4回講座　「読むこと」「書くこと」の指導

拠点校 95名　拠点校外 59名

講師：小学校英語教育学会愛知支部長 愛知県立大学教授 池田 周

▲講座詳細

小学校「外国語」では、「読むこと」の領域の目標イとして「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする」が設定されています。この目標に向けた指導について、小学校学習指導要領（平成29年告示）外国語・外国語活動編には、「児童の学習の段階に応じて，語の中で用いられる場合の文字が示す音の読み方を指導することとする。その際，中学校で発音と綴りとを関連付けて指導することに留意し，小学校では音声と文字とを関連付ける指導に留めることに留意する必要がある。」と述べられています（p.78）。本講座では、この指導の目指すところは何か、また、どのような理論に基づくものかの理解を目標とするとともに、そこから発展させた「読むこと」と「書くこと」の領域の指導における支援や工夫のあり方について具体的に考えていきました。

令和4年8月1日（月）午前9時30分～午前10時40分

第5回講座　言語活動の効果を高めるための工夫とパフォーマンス評価

拠点校 81名　拠点校外 60名

講師：明海大学教職課程センター・地域学校教育センター教授 金子 義隆

▲講座詳細

本講座では、「言語活動」の基本的な考え方を確認した後に言語活動の効果を高めるための工夫について、受講者の皆さんと考えました。学習指導要領で意図された言語活動を実践するために3つの工夫（必然性のある場面設定、インタラクションの働き、フィードバック）について扱いました。最後に、評価の基本的な考え方について確認しました。

令和4年8月1日（月）午前10時50分～午前12時00分

第6回講座　学校段階間の接続の重要性

拠点校 75名　拠点校外 56名

講師：明海大学教職課程センター・地域学校教育センター教授 石鍋 浩／坂本 純一

▲講座詳細

小学校段階において育むべき資質・能力を、三つの柱に沿って、教育課程全体及び教科等ごとに明確化し、中学校以後の学びに円滑に接続させることが求められています。本講座では、各地区における学校段階間の接続の成果と課題を出し合い、小学校から中学校以後の指導へ円滑に接続できるようにするための指導方法や言語活動等について考えていきました。

令和4年8月2日（火）午前9時30分～午前10時40分

第7回講座　授業研究①　Team-Teaching

拠点校 92名　拠点校外 59名

授業者：小西 了太／メアリー・ビアンカ・インフェブル　　学校名・学年：浦安市立日の出南小学校 第6学年
講師：明海大学教職課程センター・地域学校教育センター教授 百瀬 美帆／米村 珠子
明海大学多言語コミュニケーションセンター教授 パトリツィア・ハヤシ
明海大学多言語コミュニケーションセンター准教授 タイソン・ロード

▲講座詳細

本時は、全8時間中の2時間目の授業でした。旅行代理店のスタッフとして、外国について紹介をする活動につなげる前段階の授業としました。児童に提示するめあては、「行きたい国について話そう」としましたが、授業の構成としては、前半を単語や文を聞き取るための活動、後半を「話すこと［やり取り］」につなげるための活動としました。

令和4年8月2日（火）午前10時50分～午前12時00分

第8回講座　授業研究②　読むこと・書くことの指導

拠点校 85名　拠点校外 60名

授業者：下田 祐子　　学校名・学年：足立区立寺地小学校 第6学年
講師：小学校英語教育学会愛知支部長 愛知県立大学教授 池田 周

▲講座詳細

足立区では、第6学年の授業を提案しました。本動画では、「ALTに伝わるような宝物クイズを出して考えよう」というあてのもと、友達とのやり取りを繰り返し行い、表現に十分に慣れ親しんだ上でワークシートに書く活動場面を収めました。子どもたちが「書くこと」の資質能力を身に付けていくための効果的な指導方法についてみなさんと一緒に考えていきました。

令和4年9月22日（木）午後3時20分～午後4時20分

第9回講座　授業研究③　聞くこと・話すことの指導

拠点校 62名　拠点校外 63名

授業者：福永 祐一郎　　学校名・学年：いわき市立中央台東小学校 第4学年
講師：J-SHINE理事 共愛学園前橋国際大学客員教授 育英短期大学非常勤講師 井熊 ひとみ

▲講座詳細

いわき市では、「児童の伝えたいという思いを引き出し、英語表現を使って伝えることの楽しさや相手に伝わった時の喜びを感じながら、外国語に慣れ親しむ児童の育成」というテーマで、第4学年の授業を提案しました。本動画には、単元（総時数4時間）の第3時の「友達に自分の文房具セットを伝えよう」という場面を収めました。授業者と児童、また児童同士が、自然な流れの中で英語でのやり取りができるよう、場面設定を工夫しました。

令和4年10月25日（火）午後3時20分～午後4時20分

第10回講座　授業研究④　Team-Teaching

拠点校 85名　拠点校外 66名

授業者：菊地 大地　　学校名・学年：横手市立横手南小学校 第4学年
講師：明海大学教職課程センター・地域学校教育センター教授 百瀬 美帆／米村 珠子
明海大学多言語コミュニケーションセンター教授 パトリツィア・ハヤシ
明海大学多言語コミュニケーションセンター准教授 タイソン・ロード

▲講座詳細

横手市では、効果的なティーム・ティーチングによる学びの充実を目指して、第4学年の授業を提案しました。本動画には、単元（全4時間）の4時間目の学習場面を収めました。指導者が協働して授業をつくり、充実した指導・評価ができるように、ご参加の皆様と共に考えていきました。

令和4年11月14日（火）午後3時20分～午後4時20分

第11回講座　授業研究⑤　聞くこと・話すことの指導

拠点校 49名　拠点校外 55名

授業者：西巻 愛海／マイケル・レーダー　　学校名・学年：妙高市立妙高小学校 第5学年
講師：J-SHINE理事 共愛学園前橋国際大学客員教 育英短期大学非常勤講師 井熊 ひとみ

▲講座詳細

妙高市では、5年生の授業を提案しました。本時のゴールを「妙高小学校の先生のことをもっとよく知るために、「Who am I?クイズ」を通して、できることやできないこと、好きなものなどについてやり取りすることができる」と設定しました。そして、単元の指導計画や本時の展開における活動を、バックワードで、かつ、スモールステップで配列し、児童が無理なくゴールに到達できるように工夫して指導しました。児童が自信をもって英語で表現しようとするための指導の在り方についてご協議いただきました。

令和4年12月13日（火）午後3時20分～午後4時20分

第12回講座　授業研究⑥　小中接続

拠点校 65名　拠点校外 56名

授業者：髙山 るり子／楢崎 友哉
学校名・学年：狛江市立和泉小学校 第6学年・狛江市立狛江第三中学校 第1学年
講師：明海大学教職課程センター・地域学校教育センター教授 石鍋 浩／坂本 純一

▲講座詳細

狛江市では「かけはしプロジェクト」として小中の連携を推進する取組みを行っています。昨年度は小学校から中学校への「学びの接続」のために、「教材」の共有、「内容」の共有、「指導法」の共有という3つの視点を設定して研究を進め、連携授業案を作成しました。今回は、小学校6年生が実際に中学校を訪問し、中学校1年生と直接交流を行った授業を提案しました。小中連携についてお気付きの点や各地区の実践について、ご参加の皆様と協議を深めました。

「Zoomによる小学校英語・なんでも相談交流室」

今年度の委託事業から、全12回の講座に加え、新たに追加した、自由参加の相談・交流コーナーである。全3回実施した。実施方法は、再委託機関を通さず、明海大学が指定したZoomに希望者が入室することとした。全3回とも、指導者は、藤田保・上智大学言語教育センター長、教授（J-SHINE専務理事）とした。

▲詳細

講座受講による意識の変容　第7回～第12回講座（授業研究）抜粋

それぞれの講座終了後、受講者には次の6項目についてリフレクションシートに回答するよう求めた。そのうち、質問4～6について、以下のような回答を得た。

質問1　名前　質問2　所属　質問3　勤務校　質問4　授業実践発表を見て新しく学んだことや気づいたことは何ですか?
質問5　振り返り協議後に新しく気づいたことは何ですか?　質問6　講師の指導助言から学んだことや気付いたことは何ですか?

質問4　第7回講座　授業研究①　Team-Teaching

授業者のポジティブなフィードバックの大切さについて改めて気付かされた。授業者の全体や個人に対する具体的なフィードバックがとてもよかったので、自分でもフィードバックのバリエーションを今後もっと増やしていきたいと感じた。

ALTとJTEとがしっかりと役割分担をして授業を進めていた。事前の打ち合わせを入念に行っているのだと思う。授業の中でほめ言葉をたくさんかけており、いい雰囲気の中で多くの発話を引き出していた。子どもの語彙が不足し困っているときに、上手にALTを活用して英語で何というのかを気付かせていた。

質問4　第8回講座　授業研究②　読むこと・書くことの指導

授業の初めにデモンストレーションを行い、ゴールの姿を示していた。T・Tでなくても、子どもたちに何をするのか、何ができるようになるとよいのかを示すことができるのだとわかった。また、中間評価を何度も行い、より適切な語の選択や表現の工夫ができるようにしていて、中間評価後の児童の変容からも、その大切さがあらためてわかった。

学級経営がすばらしく、担任が英語を担当することの良さもあること。教員が答えを教えることよりもどう伝えたら良いか考えさせることに注力していること。

質問5　第9回講座　授業研究③　聞くこと・話すことの指導

協議の中で、"Do you have a pen?"を話す必然性のある流れを作るには、どうしたらよいかという意見が出た。自然な流れと場面の設定を考えることが難しいと思った。

キーセンテンス（扱わなければならない文や語句等）と授業の流れをどのようにマッチングさせていくべきか、自然な流れ（児童の思考に沿ったもの）になるようにしていくことが重要だと感じた。

質問5　第10回講座　授業研究④　Team-Teaching

場面設定が大切であると感じた。「仕方がないから話す」のではなく、「話してみたい」「聞いてみたい」という児童の気持ち、必然性を生む設定を今後も考えていきたい。

ALTがいるからこそ自然なやり取りを児童に見せることができると改めて気づいた。Small talkで児童に本時のめあてを共有する際に、めあてを共有した後に再度やり取りの流れを見せることで、児童は目的や場面を具体的に想像しながら英語を聞くことができると感じた。そのためにもALTとのTT授業では明確な役割分担が必要であると実感した。

質問6　第11回講座　授業研究⑤　聞くこと・話すことの指導

既習事項をたくさん授業で組み込み活動していくことが大切だと学んだ。また、ゴール設定→ゴールの共有→動機付け→導入→活動（練習）→振り返りの流れで授業を進めていきたいと思った。

「できた、できなかった」ではなく、「できなかったけれど努力した」ことや「できなかったから次は～しよう」と振り返らせることの大切さを学んだ。

質問6　第12回講座　授業研究⑥　小中接続

「人」「もの」「方法」の連携が必要であることとその重要性。

無理のない範囲、状況でできることから行っていくこと。それぞれの校種における学習指導要領の内容を把握した上で、双方が自校種での学びを伝え合いすり合わせていくことでより小中連携の効果が発揮されていくのだと思った。

小学生には英語で文章を書くことが難しい事や、中学生の学習範囲を確認するなど小中の教師間の準備も大切だと学んだ。